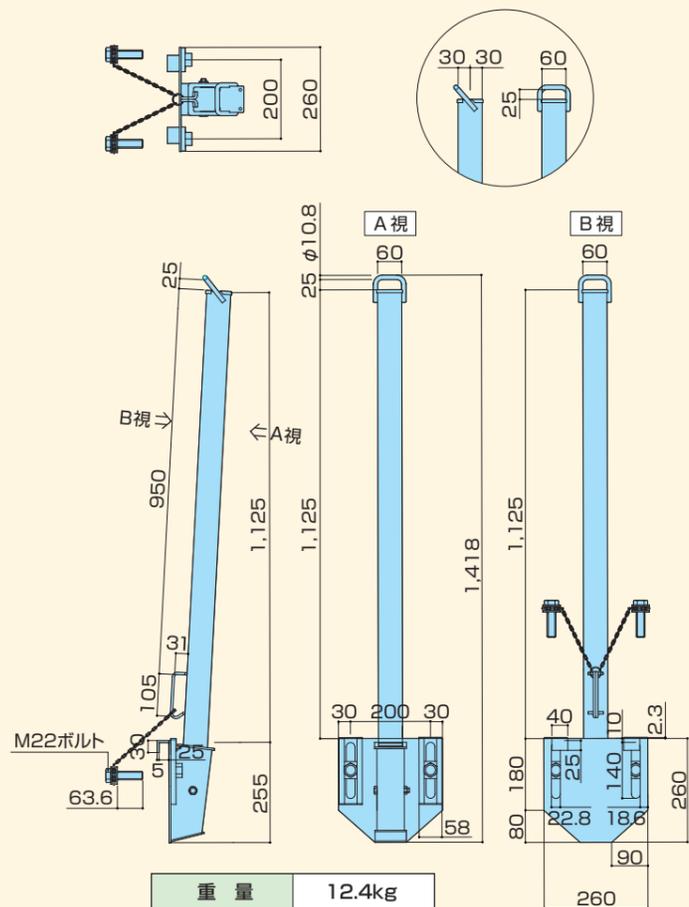


山留親綱支柱

寸法図

※単位はmm



梱包荷姿

■ 吊りパレット1台(35本)



取扱説明書

■ 山留親綱支柱取扱説明書



ご使用前に記載のQRコードを読み取り必ず取扱説明書をご確認ください。

仮 仮設工業会単品承認品

安全第一！墜落災害を防ぐ信頼の

山留親綱支柱

特長

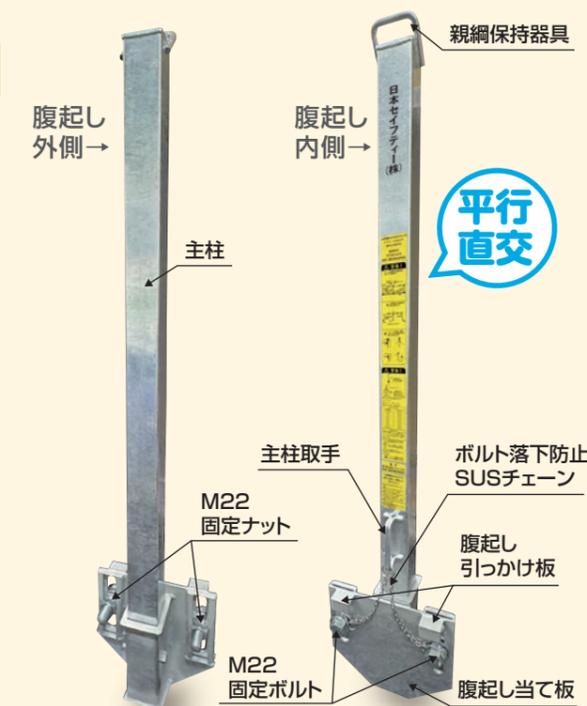
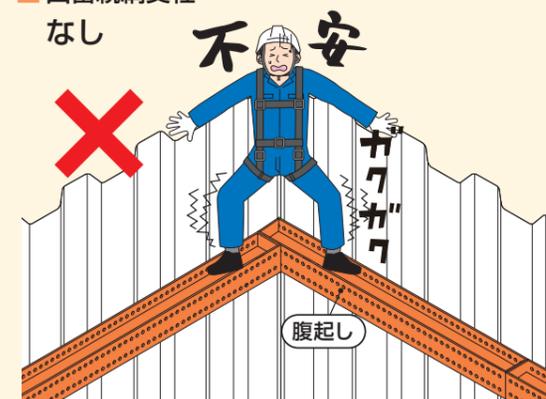
墜落災害を防止する

本製品は、建設工事現場の山留工事作業で使用される「腹起し(H形鋼)」に取り付け、親綱を張る事で墜落災害を防止するための設備です。

■ 山留親綱支柱あり

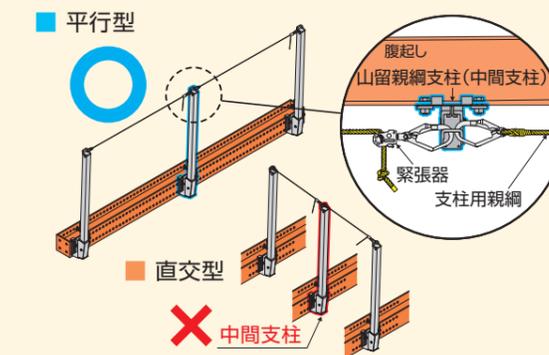


■ 山留親綱支柱なし



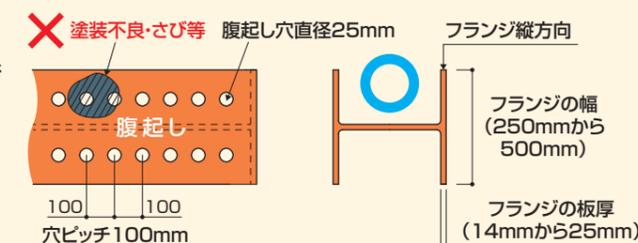
平行直交兼用で使える

平行型・直交型での設置が可能です。平行型は中間支柱としても使用可能です。
注:直交型は、中間支柱の使用不可です。



取付可能条件(以下全て該当する箇所のみ設置可能です。)

- ① フランジ向きが縦方向となっている箇所
- ② 腹起しのフランジ幅が250mm以上500mm以下の箇所
- ③ 腹起しのフランジ板厚が14mm以上25mm以下の箇所
- ④ 腹起しのボルト穴径が直径25mmの箇所
- ⑤ 腹起しの水平方向の穴ピッチが100mmの箇所
- ⑥ 腹起し表面に塗装やさび等による凹凸がない箇所



■ レンタル・販売

日本セイフティー株式会社
NIHON SAFETY CO.,LTD.
<http://www.nihonsafety.com>

本社 〒102-0082 東京都千代田区一番町21番地 一番町東急ビル11F
東日本第1営業部 TEL.03-6369-2221 FAX.03-6369-2220
東日本第2営業部 TEL.03-6369-2222 FAX.03-6369-2230
ラップン事業部 TEL.03-6369-2223 FAX.03-6369-2228
大阪支店 〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目5-16 本町スクエアビル1F
営業部 TEL.06-6260-1122 FAX.06-6260-1123
東北支店 〒989-1503 宮城県柴田郡川崎町川内北川原山228-5
TEL.0224-85-2331 FAX.0224-84-2333
名古屋支店 〒496-0026 愛知県津島市唐臼町二ツ池60番地
TEL.0567-33-0077 FAX.0567-33-0078
広島支店 〒731-0223 広島県広島市安佐北区可部南5丁目6番1号
TEL.082-819-1877 FAX.082-819-1878
四国支店 〒761-8031 香川県高松市郷東町577番地5
TEL.087-832-8181 FAX.087-832-8180
九州支店 〒811-2104 福岡県糟屋郡宇美町井野316番地585
TEL.092-957-6812 FAX.092-957-6813
札幌営業所 〒001-0915 札幌市北区新琴似町574-2
TEL.011-769-7631 FAX.011-769-7630
静岡営業所 〒421-0303 静岡県榛原郡吉田町片岡8番2
TEL.0548-32-6661 FAX.0548-32-3456

■ 取扱い店



◆ カタログ掲載商品について
このカタログの掲載内容は、2025年9月1日現在のものです。製品改良のため、仕様及び外観の一部を予告なく変更する場合があります。

◆ 地域により取り扱いのない商品や色、サイズ、仕様が異なる場合がありますので、詳細は各担当にお問い合わせ下さい。◆

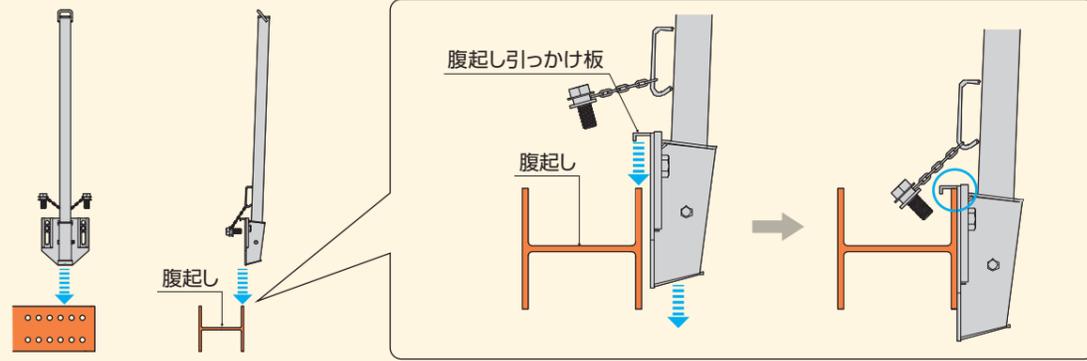
YOZS-2509-01

日本セイフティー株式会社
NIHON SAFETY CO.,LTD.

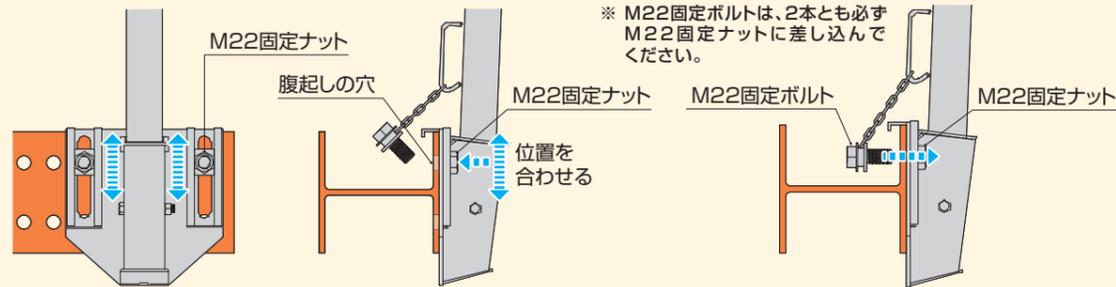
山留親綱支柱

設置手順

① 腹起し上部に山留親綱支柱を仮置きしてください。



② M22固定ナット部分をスライドさせて、腹起しの穴と位置を合わせてください。



③ M22固定ボルトを山留親綱支柱のM22固定ナットに差し込み仮留めしてください。

※ M22固定ボルトは、2本とも必ずM22固定ナットに差し込んでください。

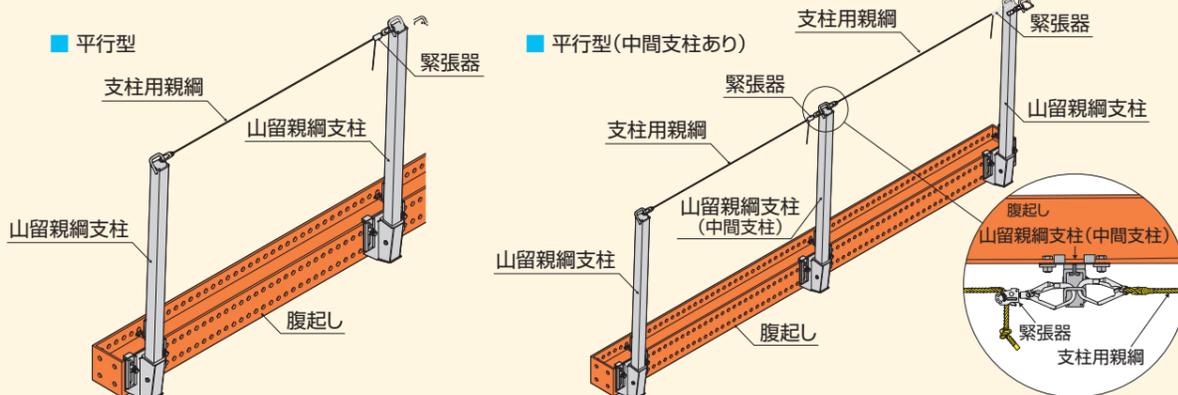
④ 山留親綱支柱に傾きがないことを確認し、M22固定ボルトを規定の締め付けトルク6.0kN・cmで締め付けてください。

※ M22固定ボルト2本が、均等に規定の締め付けトルク6.0kN・cmで締め付けられていることを確認してください。

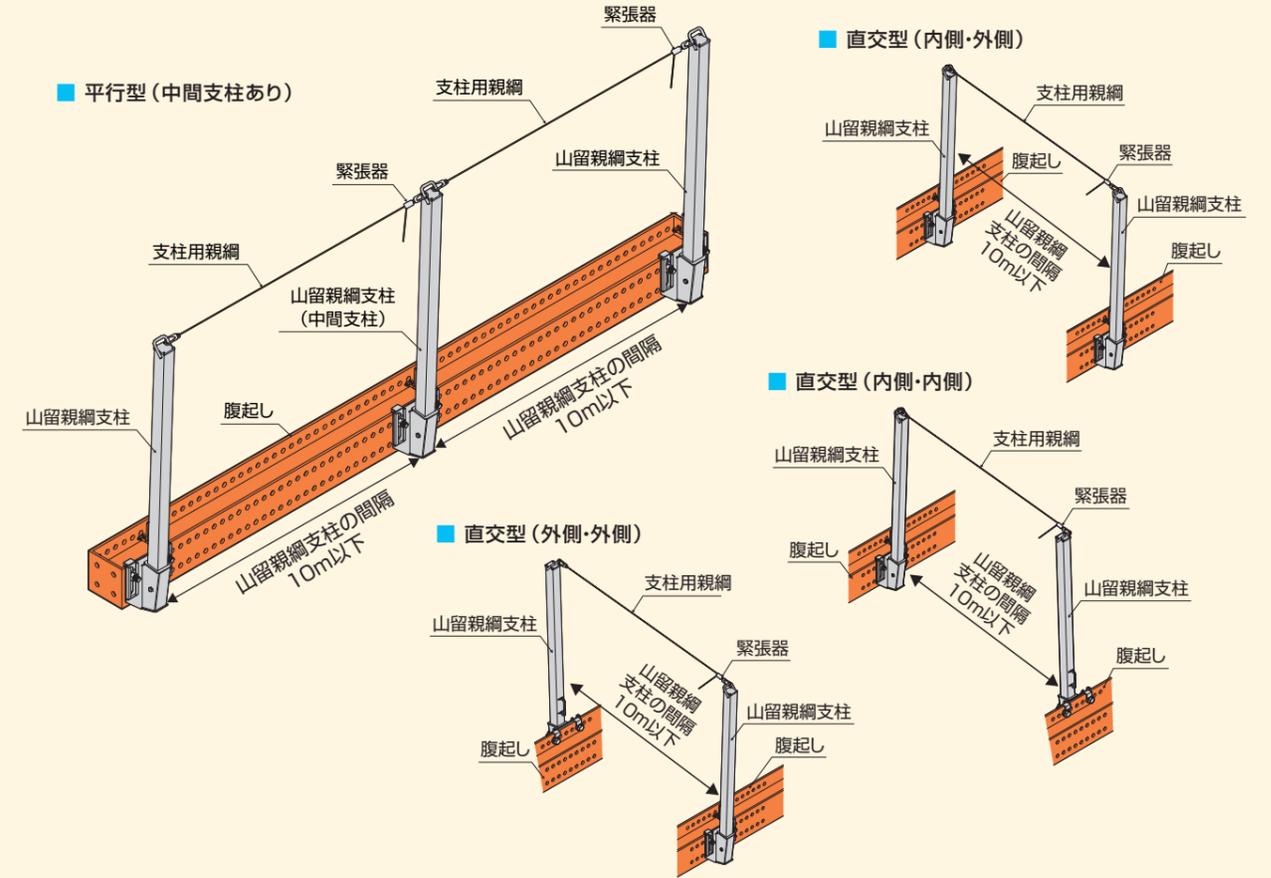
※ M22固定ボルトを締め付ける際には、山留親綱支柱が腹起しに対して、垂直となっていることを確認したのち、固定ボルトを本締めしてください。



⑤ 親綱保持器具に支柱用親綱を取り付け、緊張器でたるまない程度緊張し、設置完了です。



取り付け例



使用基準・注意

- ・ M22固定ボルトの締め付けトルクは6.0kN・cmで締め付けてください。
- ・ 腹起し上では腹起し接合部の点検作業等の軽作業以外は行わないようにしてください。
- ・ 支柱用親綱を連続して設置する場合(平行型に限ります)、他の種類の支柱を混在して使用しないようにしてください。
- ・ 落下衝撃を受けておらず、損傷、腐食、変形等異常のない山留親綱支柱であることを確認して使用してください。
- ・ 使用する墜落制止用器具はフルハーネス型を原則とし、厚生労働大臣が定める規格に適合するものを使用してください。
- ・ 支柱用親綱は、緊張器等を用い山留親綱支柱本体の所定の取付部に、たるまない程度に張ってください。
- ・ 支柱用親綱の代わりにワイヤーロープを使用しないでください。
- ・ 支柱用親綱をターンバックルやレバーブロックなどを用いて緊張させないでください。
- ・ 山留親綱支柱を本来の目的以外に使用しないようにしてください。
- ・ 支柱用親綱を取り付けた山留親綱支柱1スパンにつき1人のみ使用してください。
- ・ 山留親綱支柱を投げるなど、破損の原因となるような行為をしないようにしてください。
- ・ 山留親綱支柱本体に直接墜落制止用器具のランヤードフックを取り付けないようにしてください。
- ・ 山留親綱支柱を平行型で連続して設置する場合は、支柱用親綱を親綱保持器具に左右からフックを掛けてください。
- ・ 山留親綱支柱の親綱保持器具に支柱用親綱を通して使用しないようにしてください。
- ・ コーナー部の山留親綱支柱に平行及び直交それぞれの方向から支柱用親綱のフックを同時に設置しないようにしてください。

※ コーナー部の山留親綱支柱に平行及び直交それぞれの方向から、支柱用親綱フックを同時に設置しないでください。

※ 山留親綱支柱の親綱保持器具に、支柱用親綱を通して使用しないでください。

